



タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4604		
科目名	ゼミナールⅣ		
担当教員	杉山 幸一		
対象学年	4年	開講学期	後期
曜日・時限	火 5		
講義室	1301	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	<p>■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連</p> <p>DP1-E〔学識・専門技能〕 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。</p> <p>DP7-L〔協働力・牽引力〕 集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。</p> <p>DP5-J〔創造的挑戦力・達成力〕 コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び行動のパターンとするとともに、既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し、リスクをとりながら、結果に結び付けることができる。</p> <p>DP6-K〔表現力・対話力〕 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。</p> <p>DP8-M〔省察力〕 知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。</p> <p>DP4-F〔探究力・課題解決力〕 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。</p> <p>DP2-B〔自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢〕 自己の存在意義を知り、自らを高め続けようと努力することができる。</p> <p>DP7-C〔他者理解・倫理観・公共心〕 人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。</p> <p>DP4-I〔理解力・分析力〕 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。</p> <p>■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連</p> <p>E1 学識と専門技能（20%） L1 チームワーク（20%） J1 継続的学習基盤（15%） K1 ライティング・コミュニケーション（10%） M1 統合的・応用的学修（10%） F2 課題解決（10%） B1 自己啓発（5%） C1 倫理的思考・社会認識（5%） I1 理解・分析と読解（5%）</p>		
教員の実務経験	なし		
成績ターゲット区分	■能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期～ 4 完成期		

科目概要・キーワード	<p>危機管理とその基礎となる法学に関する専門的な研究活動を実践するために、必要な研究手法を学び、学生自らが個人の研究テーマを設定し、研究論文を執筆するための指導を行います。ここでは、個人研究を卒業論文として執筆し、完成させるまでの総合的なプロセスを指導する。授業形態は演習により行います。</p> <p>授業形態は(講義・実技・実習・演習)形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。</p> <p>(キーワード) 危機管理、法学、仮説の立証、卒業論文執筆</p>				
授業の趣旨	<p>■副題 危機管理の法的問題に関する憲法学的研究</p> <p>■授業の目的 危機管理と法学、特に憲法学に関する研究テーマの探求、研究手法の会得、研究成果の発表の各過程を通じて、①学識・専門技能、②協働力・牽引力、③創造的挑戦力・達成力、④表現力・対話力、⑤省察力の各コンピテンスの開発を行うことを目的とします。</p> <p>■授業のポイント 危機管理学部での4年間の学びの集大成を卒業論文にまとめます。</p>				
総合到達目標	<p>■旺盛な関心をもって危機管理学及びそれを支える法学における重要問題を探求し、これを科学的な手法によって分析することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究方法や研究論文の進め方について理解できる。(第1回) ・問題点や論点を探究し、自らの見解を持つことができる(第2回～第8回) ・問題意識を持ち、探究することができる(第2回～第8回) <p>■論理的に解釈して知見を見出すとともに、その成果を卒業論文にまとめ、適切に表現することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの見解を証明するための文献や資料収集することができる(第9回～第15回) ・文献の読み方や資料の解釈などを修得する(第9回～第15回) 				
成績評価方法	<p>■成績評価手段</p> <p>実技・パフォーマンス各自2回(25%)：適用ルーブリック：E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1</p> <p>(評価方法) 様々な社会上の憲法問題を認識し、その中から自らの問題意識をもち、その問題の構造を理解し、状況を把握できているか、その問題に対して卒論に向けて目的を持ち、いかに内容を展開させていくか、アイデンティティーを確立し、条文を解釈し、他者との議論を通じて自らの見解を確立できているか評価します。</p> <p>(フィードバック) 授業時間内に解説を実施し、テーマの適切性、仮説の妥当性について講評します。</p> <p>■授業参加度15回(25%)：適用ルーブリック：E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1</p> <p>(評価方法) 他者の研究内容を通じてまず自らの知識を取り出し、活用しているか、またその研究の結論が妥当であるかどうか、対立点の発見や解消、最適化を議論を通じてなされているか、評価します。他者の研究内容は自分には関係ないという姿勢ではなく、全員で研究内容について検討し、議論しているか、評価します。</p> <p>(フィードバック) 各自の意見が妥当なものか、議論が適切になされているか、参加しているかの態度について講評します。</p> <p>■卒業論文1回(50%) E1・J1・K1・B1・C1・I1・M1</p> <p>(評価方法) 自らの問題意識(論点)に対して、妥当な結論が導き出されているか、その結論に到達するまでの論理が妥当であるか、論文で取り上げた各内容についてしっかり理解できているかどうか評価します。</p> <p>(フィードバック) ポータルサイトを通じて、卒業論文の講評を行います。また、サブゼミの時間を作り、その中で全体的な講評も行います。</p>				
履修条件	なし				
履修上の注意点	特になし				
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="464 1771 512 1816">回</th> <th data-bbox="512 1771 1481 1816">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="464 1816 512 2157">1</td> <td data-bbox="512 1816 1481 2157"> <p>①授業テーマ ガイダンス(全体のテーマ、授業の進め方、成績評価の仕方等の説明)、イントロダクション</p> <p>②授業概要 (ガイダンス) 授業概要、授業の目的と進め方、到達目標、成績評価方法について説明を行います。 (イントロダクション) 研究方法(E1・J1)、プレゼンの手法(K1・M1)、議論の方法(L1・B1)</p> <p>③予習(120分) ゼミナールIで設定した研究テーマと文献について確認し、ゼミナールIIで進めた研</p> </td> </tr> </tbody> </table>	回	内容	1	<p>①授業テーマ ガイダンス(全体のテーマ、授業の進め方、成績評価の仕方等の説明)、イントロダクション</p> <p>②授業概要 (ガイダンス) 授業概要、授業の目的と進め方、到達目標、成績評価方法について説明を行います。 (イントロダクション) 研究方法(E1・J1)、プレゼンの手法(K1・M1)、議論の方法(L1・B1)</p> <p>③予習(120分) ゼミナールIで設定した研究テーマと文献について確認し、ゼミナールIIで進めた研</p>
回	内容				
1	<p>①授業テーマ ガイダンス(全体のテーマ、授業の進め方、成績評価の仕方等の説明)、イントロダクション</p> <p>②授業概要 (ガイダンス) 授業概要、授業の目的と進め方、到達目標、成績評価方法について説明を行います。 (イントロダクション) 研究方法(E1・J1)、プレゼンの手法(K1・M1)、議論の方法(L1・B1)</p> <p>③予習(120分) ゼミナールIで設定した研究テーマと文献について確認し、ゼミナールIIで進めた研</p>				

	<p>究内容を確認し、ゼミナールⅢで示した卒業論文の骨格を確認しておく。</p> <p>④復習（120分） ゼミナールⅣの概要と到達目標を確認し、何を習得すべきなのか確認する。</p>
2	<p>①授業テーマ 論文執筆に向けて</p> <p>②授業概要 ゼミナールⅠ～Ⅲまでに構築したテーマの概要、目次、各章のポイント、学説や判例などを文章にし、論文執筆の準備に入ります。そこで、まずタイトルのつけ方、書式、文章表現、引用符のつけ方、引用文献の表記など論文執筆の基本となることを指導します（E1・I1）。</p> <p>③予習（120分） ゼミナールⅠで設定した研究テーマと文献について確認し、ゼミナールⅡで進めた研究内容を確認し、ゼミナールⅢで示した卒業論文の骨格を確認しておく。</p> <p>④復習（120分） ゼミナールⅣの概要と到達目標を確認し、何を習得すべきなのか確認する。</p>
3	<p>①授業テーマ 論文執筆作業の中間発表①</p> <p>②授業概要 論文を執筆し始めると、様々な問題が発生します。例えば、文章表現、目次の組み直し等です。そのため、各自執筆している論文を中間発表してもらいます。書いているところまで、どのように書いているのか発表してもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表者以外は、中間発表に対して質疑、指摘を行い、議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。</p> <p>③予習（120分） 卒業論文を実際に執筆してもらう。区切りのいいところまで書き、何か書いているときに問題が発生した場合、それを認識しておく。</p> <p>④復習（120分） 他者との議論を通じて、問題点を修正する。</p>
4	<p>①授業テーマ 論文執筆作業の中間発表②</p> <p>②授業概要 論文を執筆し始めると、様々な問題が発生します。例えば、文章表現、目次の組み直し等です。そのため、各自執筆している論文を中間発表してもらいます。書いているところまで、どのように書いているのか発表してもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表者以外は、中間発表に対して質疑、指摘を行い、議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。</p> <p>③予習（120分） 卒業論文を実際に執筆してもらう。区切りのいいところまで書き、何か書いているときに問題が発生した場合、それを認識しておく。</p> <p>④復習（120分） 他者との議論を通じて、問題点を修正する。</p>
5	<p>①授業テーマ 論文執筆作業の中間発表③</p> <p>②授業概要 論文を執筆し始めると、様々な問題が発生します。例えば、文章表現、目次の組み直し等です。そのため、各自執筆している論文を中間発表してもらいます。書いているところまで、どのように書いているのか発表してもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表者以外は、中間発表に対して質疑、指摘を行い、議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。</p> <p>③予習（120分） 卒業論文を実際に執筆してもらう。区切りのいいところまで書き、何か書いているときに問題が発生した場合、それを認識しておく。</p> <p>④復習（120分） 他者との議論を通じて、問題点を修正する。</p>
6	<p>①授業テーマ 論文執筆作業の中間発表④</p> <p>②授業概要 論文を執筆し始めると、様々な問題が発生します。例えば、文章表現、目次の組み直し等です。そのため、各自執筆している論文を中間発表してもらいます。書いているところまで、どのように書いているのか発表してもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表者以外は、中間発表に対して質疑、指摘を行い、議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。</p> <p>③予習（120分）</p>

	<p>卒業論文を実際に執筆してもらう。区切りのいいところまで書き、何か書いているときに問題が発生した場合、それを認識しておく。</p> <p>④復習（120分） 他者との議論を通じて、問題点を修正する。</p>
7	<p>①授業テーマ 論文執筆作業の中間発表⑤</p> <p>②授業概要 論文を執筆し始めると、様々な問題が発生します。例えば、文章表現、目次の組み直し等です。そのため、各自執筆している論文を中間発表してもらいます。書いているところまで、どのように書いているのか発表してもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表者以外は、中間発表に対して質疑、指摘を行い、議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。</p> <p>③予習（120分） 卒業論文を実際に執筆してもらう。区切りのいいところまで書き、何か書いているときに問題が発生した場合、それを認識しておく。</p> <p>④復習（120分） 他者との議論を通じて、問題点を修正する。</p>
8	<p>①授業テーマ 論文執筆作業の中間発表⑥</p> <p>②授業概要 論文を執筆し始めると、様々な問題が発生します。例えば、文章表現、目次の組み直し等です。そのため、各自執筆している論文を中間発表してもらいます。書いているところまで、どのように書いているのか発表してもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表者以外は、中間発表に対して質疑、指摘を行い、議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。</p> <p>③予習（120分） 卒業論文を実際に執筆してもらう。区切りのいいところまで書き、何か書いているときに問題が発生した場合、それを認識しておく。</p> <p>④復習（120分） 他者との議論を通じて、問題点を修正する。</p>
9	<p>①授業テーマ 論文執筆作業の中間発表⑦</p> <p>②授業概要 論文を執筆し始めると、様々な問題が発生します。例えば、文章表現、目次の組み直し等です。そのため、各自執筆している論文を中間発表してもらいます。書いているところまで、どのように書いているのか発表してもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表者以外は、中間発表に対して質疑、指摘を行い、議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。</p> <p>③予習（120分） 卒業論文を実際に執筆してもらう。区切りのいいところまで書き、何か書いているときに問題が発生した場合、それを認識しておく。</p> <p>④復習（120分） 他者との議論を通じて、問題点を修正する。</p>
10	<p>①授業テーマ 論文執筆作業の中間発表⑧</p> <p>②授業概要 論文を執筆し始めると、様々な問題が発生します。例えば、文章表現、目次の組み直し等です。そのため、各自執筆している論文を中間発表してもらいます。書いているところまで、どのように書いているのか発表してもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表者以外は、中間発表に対して質疑、指摘を行い、議論してもらいます（E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1）。</p> <p>③予習（120分） 卒業論文を実際に執筆してもらう。区切りのいいところまで書き、何か書いているときに問題が発生した場合、それを認識しておく。</p> <p>④復習（120分） 他者との議論を通じて、問題点を修正する。</p>
11	<p>①授業テーマ 論文執筆作業の中間発表⑨</p> <p>②授業概要 論文を執筆し始めると、様々な問題が発生します。例えば、文章表現、目次の組み直し等です。そのため、各自執筆している論文を中間発表してもらいます。書いているところまで、どのように書いているのか発表してもらいます（E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1）。発表者以外は、中間発表に対して質疑、指摘を行い、議論してもらいます</p>

	<p>(E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1)。</p> <p>③予習 (120分) 卒業論文を実際に執筆してもらう。区切りのいいところまで書き、何か書いているときに問題が発生した場合、それを認識しておく。</p> <p>④復習 (120分) 他者との議論を通じて、問題点を修正する。</p>
12	<p>①授業テーマ 論文執筆作業の中間発表⑩</p> <p>②授業概要 論文を執筆し始めると、様々な問題が発生します。例えば、文章表現、目次の組み直し等です。そのため、各自執筆している論文を中間発表してもらいます。書いているところまで、どのように書いているのか発表してもらいます (E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1)。発表者以外は、中間発表に対して質疑、指摘を行い、議論してもらいます (E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1)。</p> <p>③予習 (120分) 卒業論文を実際に執筆してもらう。区切りのいいところまで書き、何か書いているときに問題が発生した場合、それを認識しておく。</p> <p>④復習 (120分) 他者との議論を通じて、問題点を修正する。</p>
13	<p>①授業テーマ 論文執筆作業の中間発表⑪</p> <p>②授業概要 論文を執筆し始めると、様々な問題が発生します。例えば、文章表現、目次の組み直し等です。そのため、各自執筆している論文を中間発表してもらいます。書いているところまで、どのように書いているのか発表してもらいます (E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1)。発表者以外は、中間発表に対して質疑、指摘を行い、議論してもらいます (E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1)。</p> <p>③予習 (120分) 卒業論文を実際に執筆してもらう。区切りのいいところまで書き、何か書いているときに問題が発生した場合、それを認識しておく。</p> <p>④復習 (120分) 他者との議論を通じて、問題点を修正する。</p>
14	<p>①授業テーマ 論文執筆作業の中間発表⑫</p> <p>②授業概要 論文を執筆し始めると、様々な問題が発生します。例えば、文章表現、目次の組み直し等です。そのため、各自執筆している論文を中間発表してもらいます。書いているところまで、どのように書いているのか発表してもらいます (E1・J1・K1・M1・B1・C1・I1)。発表者以外は、中間発表に対して質疑、指摘を行い、議論してもらいます (E1・L1・K1・M1・B1・C1・I1)。</p> <p>③予習 (120分) 卒業論文を実際に執筆してもらう。区切りのいいところまで書き、何か書いているときに問題が発生した場合、それを認識しておく。</p> <p>④復習 (120分) 他者との議論を通じて、問題点を修正する。</p>
15	<p>①授業テーマ 卒業論文の完成と提出</p> <p>②授業概要 ゼミナール I から始めた卒業論文の作成、執筆活動について各自で確認し、提出してもらいます (E1・F1・G1・K1・B1・L1・C1・I1・M1)。</p> <p>③予習 (120分) 自ら執筆した卒業論文の内容を読み返し、誤字脱字などのを確認する。</p> <p>④復習 (120分) ゼミナール I～IVを通じて構築してきた卒業論文の作成工程をもう一度確認し、論理構成、論理的文章を書き、資料を検索し精査してきたことを振り返る。</p>
関連科目	ゼミナール I (RMGT4601)、ゼミナール II (RMGT4602)、ゼミナール III (RMGT4603)、危機管理基礎演習 I (RMGT2601)
教科書	特になし
参考書・参考URL	
連絡先・オフィスアワー	<p>■連絡先 開講時に告知します。</p> <p>■オフィスアワー 火曜日1限 それ以外の時間については、メール等で事前にアポイントメント</p>

	とをとることにより研究室で対応します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント25%、パブリックセキュリティ25%、グローバルセキュリティ25%、情報セキュリティ25% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学20%、法学80%



Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.